

“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を目指す

安曇野市立小・中学校の将来構想

令和4年3月

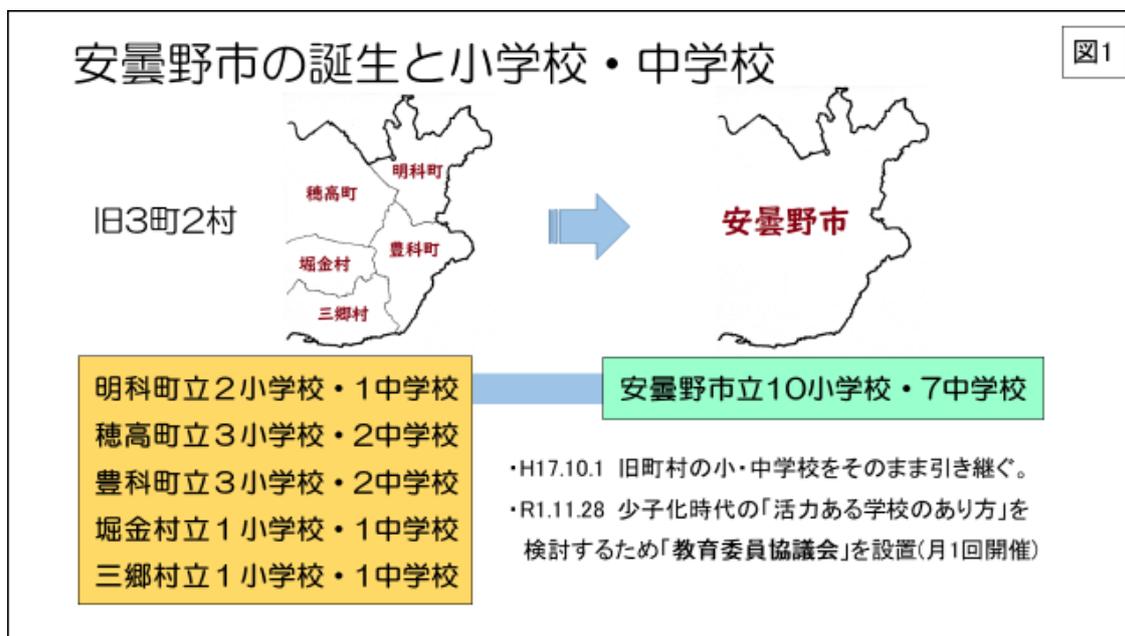
安曇野市教育委員会

はじめに

安曇野市は、平成 17 年 10 月 1 日に旧 5 町村が合併して誕生しました。これに伴い、旧町村立小・中学校は、そのまま安曇野市立小・中学校へと移管され、安曇野市教育委員会は、現在まで 10 校の小学校と 7 校の中学校を所管し義務教育を担ってきました。(図 1)

この間の安曇野市の人口の推移や少子化の状況に対して、今後の活力ある学校はどうあったらよいかについて検討する必要性が高まり、令和元年 11 月、教育委員会内に「教育委員協議会」を設置しました。*これまで、月 1 回のペースで令和 3 年 1 月まで計 15 回の協議を重ねるとともに、各種団体などと意見交換の場を設け、様々なご意見やご提言をいただき、「未来を拓くたくましい安曇野の子ども」を目指す安曇野市立小・中学校の将来構想」としてまとめました。

今後、安曇野市立小・中学校の学びの環境をより活力あるものにしていくために、夢と期待を込めたこの将来構想を受けて、具体的な行動計画の策定につなげていきたいと考えています。



*教育委員協議会は、教育委員会制度において、月 1～2 回の定例会のほかに開催できる臨時会や非公式の協議会のひとつとして、令和元年 9 月定例会で設置が承認されたもの

目次

1	安曇野教育を支えてきたもの	… 1
	(1) 教育尊重の精神や気風	… 1
	(2) 求め続ける教師	… 1
2	安曇野市内の教育施設	… 2
3	子どもを取り巻く環境の変化と課題	… 3
	(1) 社会的環境の変化に伴う子どもや学校の課題	… 3
	(2) 時代の変化に対応した教育環境整備	… 3
4	安曇野市の「教育の方針」	… 4
	(1) 安曇野市教育大綱	… 4
	(2) 安曇野市の目指す子ども像	… 5
	(3) 学校教育グランドデザイン	… 5
5	安曇野市の人口と児童生徒数	… 6
	(1) 安曇野市の人口の推移	… 6
	(2) 安曇野市の児童生徒数の推移（合併時から現在まで）	… 7
	(3) 今後の小・中学校の児童生徒数の予測と特徴	… 8
	(4) 地域ごとにみた学校別児童生徒数の予測	… 9
6	安曇野市の未来を担う世代の状況	… 11
	(1) 安曇野市の年齢別人口（人口ピラミッド）からみた課題	… 11
	(2) 中学校卒業者の進路状況	… 12
7	市民が期待する小・中学校の姿と市が目指す活力ある学校の姿	… 12
	(1) 「市民アンケート調査」からみた期待する小・中学校	… 12
	(2) 市が目指す活力ある学校の姿	… 13
8	安曇野市の教育・学校の将来像	… 14
9	「活力ある学校づくり」を目指した具体的方策	… 15
	(1) コミュニティスクールの活性化	… 15
	(2) 新たな学校運営協議会の主な役割と協議会運営のポイント	… 18
	(3) 新しいコミュニティ・スクールへの移行で変わること・期待されること	… 18
	(4) 小中一貫教育の導入	… 19
	(5) 安曇野市の目指す小中一貫教育の枠組み	… 19
	(6) 安曇野市小中一貫教育に向けた市指定校研究	… 19
	(7) 「安曇野の時間」(仮称)の創設	… 21
10	これからの安曇野市の教育・学校のあり方について（まとめ）	… 22
	【資料編】用語解説など・教育委員協議会名簿	… 23

注. 本文中の「※」を付した用語については、資料編で用語解説を記載しています。

1 安曇野教育を支えてきたもの

(1) 教育尊重の精神や気風

安曇野における教育の源流を遡ると、江戸時代末期この地に、全国的にみても数多くの寺子屋や特色ある私塾が開設されたことから始まります。その後、明治5年8月に学制が公布されると、今の小・中学校のルーツに当たる「学校」が次々に誕生し、その就学率は群を抜いて高かったことが知られています。そして、志を高くもって学びに励んだ人々の中から、日本や世界に誇る様々な分野の先覚者が多数輩出しています。(図2)

また、この地域は、“教育尊重の精神や気風・教育熱”が極めて高く、例えば、昭和15年に旧高家小学校跡に「西田幾多郎^{※1}碑」(市の有形文化財)が建てられ、現在も地元の方々の手によって大切に守られているなど、教育・文化・芸術に関する伝統や行事が各地で継承されています。

安曇野教育を支えてきたもの

—教育尊重の精神や気風—

高い志を抱いて活躍した先人たち(敬称略)

- ・藤森寿平：南安曇郡の近代教育の先駆者
- ・松沢求策：自由民権運動のリーダー
- ・井口喜源治：研成義塾の創設者
- ・荻原礫山：彫刻家
- ・白井吉見：作家・文芸評論家・教育者
- ・田淵行男：昆虫学者・山岳写真家
- ・青木祥二郎：能楽師
- ・高橋節郎：漆芸家・文化勲章受章者
- ・飯沼正明：神風号パイロット
- ・熊井 啓：社会派映画監督 ほか多数



無事於心無心於事
物となつて考へ物となつて行ふ

旧高家小学校跡に立つ
西田幾多郎碑
—市有形文化財—

図2

(2) 求め続ける教師

安曇野の学校に奉職する教師の多くは、「教育の真なるもの、教師のあるべき姿を自らに問い続け、求め続ける姿勢」をもって、南安曇教育文化会館^{※2}を拠点に、研修や調査研究活動を自主的に行い、自身の教師力の向上に努めてきました。また、安曇野ゆかりの先達の業績を顕彰し、伝え続ける伝統を受け継いでいます。(図3)

図3

安曇野教育を支えてきたもの —求め続ける教師—

安曇野ゆかりの先達から学ぶ伝統

- ・南安曇教育会初代会長 岡村千馬太先生
- ・教育哲学者 木村素衛先生
- ・哲学者 務台理作先生 ほか

教育力を高める研修と調査研究活動

地域や保護者とともに取り組む活動

- ・安曇野の子どもを語る会



安曇野教育の拠点
南安曇教育文化会館

2 安曇野市内の教育施設

安曇野市には、認定こども園 20 園（公立 18 園、私立 2 園）、保育園 1 園（私立）、地域型保育事業所 8 園（家庭的保育：私立 1 園、小規模保育：私立 6 園、事業所内保育：私立 1 園）、幼稚園 1 園（公立）、認可外私立 6 園があります。令和 3 年 5 月 1 日現在の在籍人数は、2,693 人です。

また、市立小学校 10 校、市立中学校 7 校、県立高等学校が 4 校あります。令和 3 年 5 月 1 日現在、10 小学校に 4,744 人、7 中学校に 2,507 人、4 高等学校に 1,555 人が在籍しています。（図 4）

図4

市内の保育・教育施設

(R3.4)

就学前	認定こども園	公立18園、私立2園
	保育園	私立1園
	地域型保育事業所	家庭的保育(私立1園)、小規模保育(私立6園)、事業所内保育(私立1園)
	幼稚園	公立1園
	認可外	私立6園 公立19園、私立16園
小学校	豊科地域	豊科南小学校、豊科北小学校、豊科東小学校
	穂高地域	穂高南小学校、穂高北小学校、穂高西小学校
	三郷地域	三郷小学校
	堀金地域	堀金小学校
	明科地域	明南小学校、明北小学校 公立10校
中学校	豊科地域	豊科南中学校、豊科北中学校
	穂高地域	穂高東中学校、穂高西中学校
	三郷地域	三郷中学校
	堀金地域	堀金中学校
	明科地域	明科中学校 公立7校
高校	県立	明科高校、豊科高校、南安曇農業高校、穂高商業高校 公立4校

3 子どもを取り巻く環境の変化と課題

(1) 社会的環境の変化に伴う子どもや学校の課題

児童生徒や学校の現状を分析し、課題を3つに集約しました。(図5)

① 学校や子どもたちを取り巻く環境の複雑化、多様化

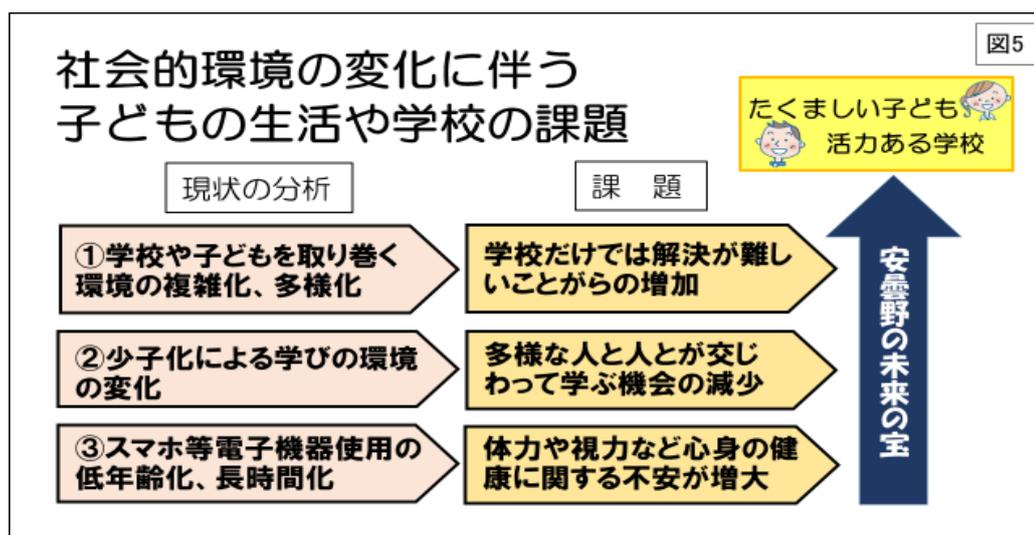
学校や子どもたちを取り巻く環境や状況が常に激しく変化し、価値観等の多様化もあって、学校だけでは解決が難しいことがらが多数あること。

② 少子化による学びの環境の変化

少子化による学級減やひとクラスの人数減により、多様な考えや経験をもつ人と人が交わって学ぶ機会が次第に少なくなっていること。

③ スマホ等電子機器使用の低年齢化、長時間化

児童生徒の生活スタイルや生活習慣の変化等により視力、体力、コミュニケーション力等の心身の健康に対する不安が増大してきたこと。



(2) 時代の変化に対応した教育環境整備(図6)

① ICT環境の整備

安曇野市では、ICT環境の整備を計画的に進め、電子黒板を平成29年度に全中学校7校のすべての普通教室に、令和2年度に全小学校10校のすべての普通教室に設置しました。

また、国のGIGAスクール構想を受け、全小・中学校のネットワーク環境整備と児童生徒への1人1台の学習用端末購入を令和3年5月までに完了しました。

② エアコンの整備

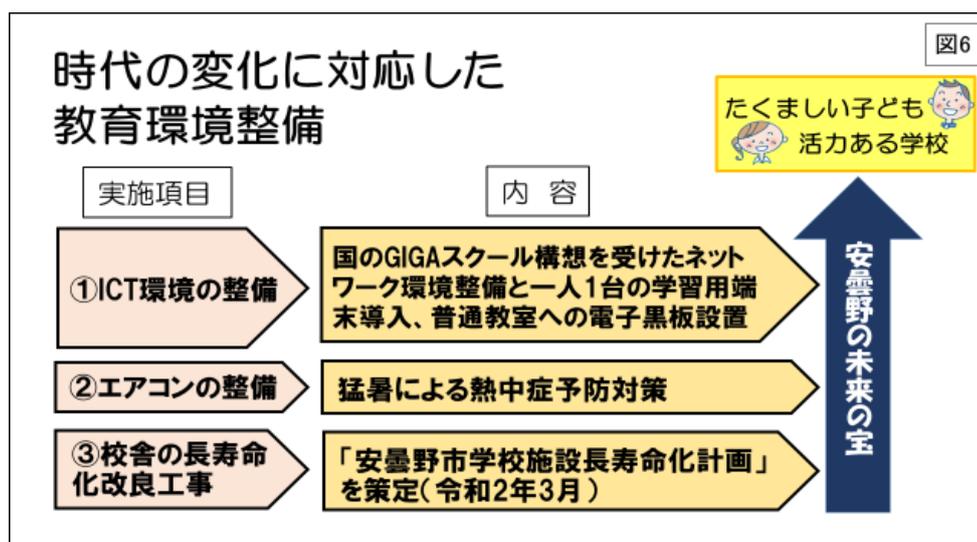
平成30年度の猛暑を受け、エアコンを全小・中学校の普通教室に令和2年度末までに設置しました。

③ 校舎の長寿命化改良工事

安曇野市の学校施設は、公共施設の約4割を占め、その中の建築後40年以上経過した校舎の保有面積が3割を占めるなど、老朽化が深刻です。

また、建築年が合併前の旧町村においてほぼ同時期であるため更新が集中する問題があります。

そこで、小・中学校の校舎の劣化状況を調査し、今後の計画的整備に資するための資料として「安曇野市学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定しました（令和2年3月）。今後、財政状況や児童生徒数の推移を踏まえつつ、学校規模の適正配置を見据えながら実施計画等に反映させていく予定です。



4 安曇野市の「教育の方針」

(1) 安曇野市教育大綱

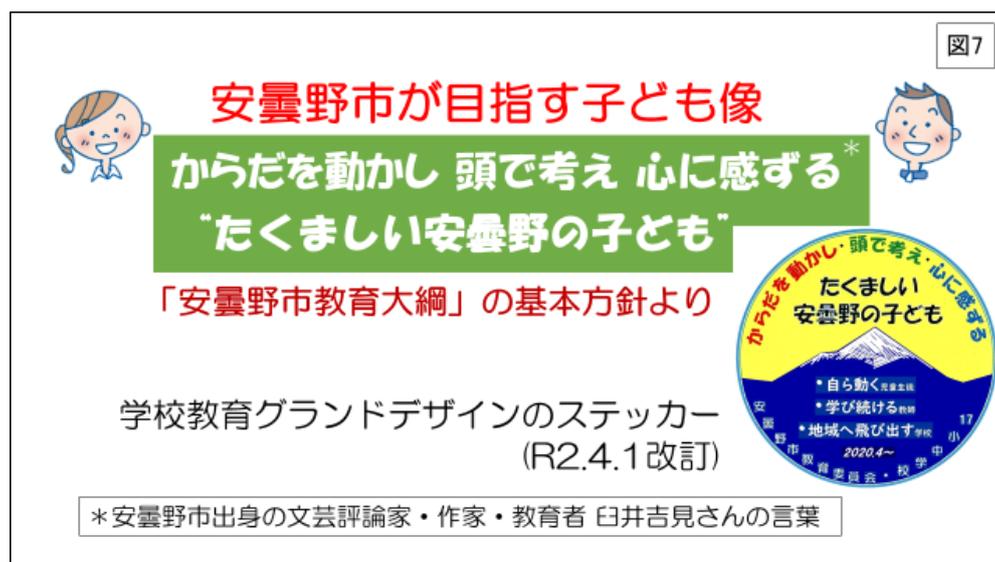
安曇野市は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の施行（平成27年4月1日）に伴い、総合教育会議の議論を経て「安曇野市教育大綱」を策定しました（平成27年10月）。そして、平成30年12月に開かれた総合教育会議において、期間を令和5年3月31日までとする新たな「安曇野市

教育大綱（改訂版）」を策定しました。（資料編 P28 参照）

この中で、平成 27 年度から掲げてきた「たくましい安曇野の子ども」の育成を基本方針の第 1 に掲げ、その旗印としてステッカーのリニューアルも行いました。

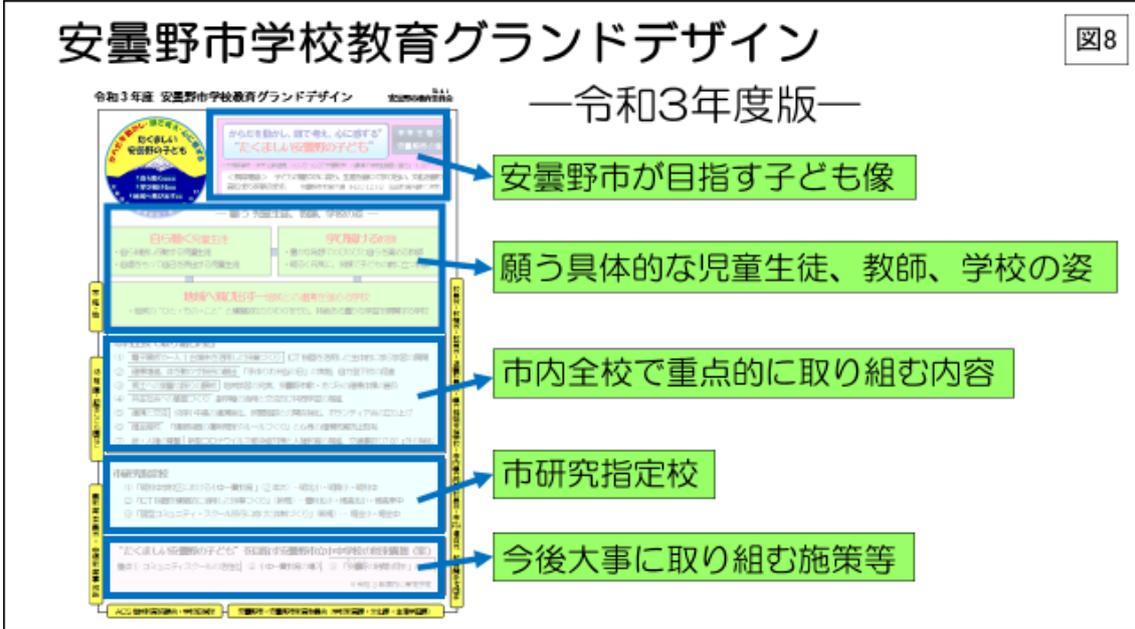
(2) 安曇野市の目指す子ども像

安曇野市が目指す子ども像は「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる“たくましい安曇野の子ども”」です。この「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる」のフレーズは、安曇野市堀金出身の文芸評論家・作家・教育者の臼井吉見さんが昭和 42 年 3 月に中学生に行った講演「中学生諸君にのぞむ」の中で語った言葉から引用したものです。「からだ・頭・心」のバランスの取れた具体的な目指す子どもの姿は、50 年以上前と今を比べても決して色あせることなく、これから求めていきたい安曇野の子ども像を具体的にイメージできるものです。（図 7）



(3) 学校教育グランドデザイン

「令和 3 年度学校教育グランドデザイン」では、目指す具体的な児童生徒・教職員・学校の姿として、「自ら動く児童生徒」「学び続ける教師」「地域へ飛び出す一地域との連携を強める学校」の 3 点を掲げました。次に、「市内全小中学校で重点的に取り組む内容」として、課題や目標 7 項目を掲げました。これらは、前年度までの各学校の取り組みの成果と課題を踏まえ市校長会とも協議して決めだしたものです。また、「市研究指定校」を明記し、全 17 小中学校が市の目指す教育方針を共有しながら取り組んでいます。（図 8）

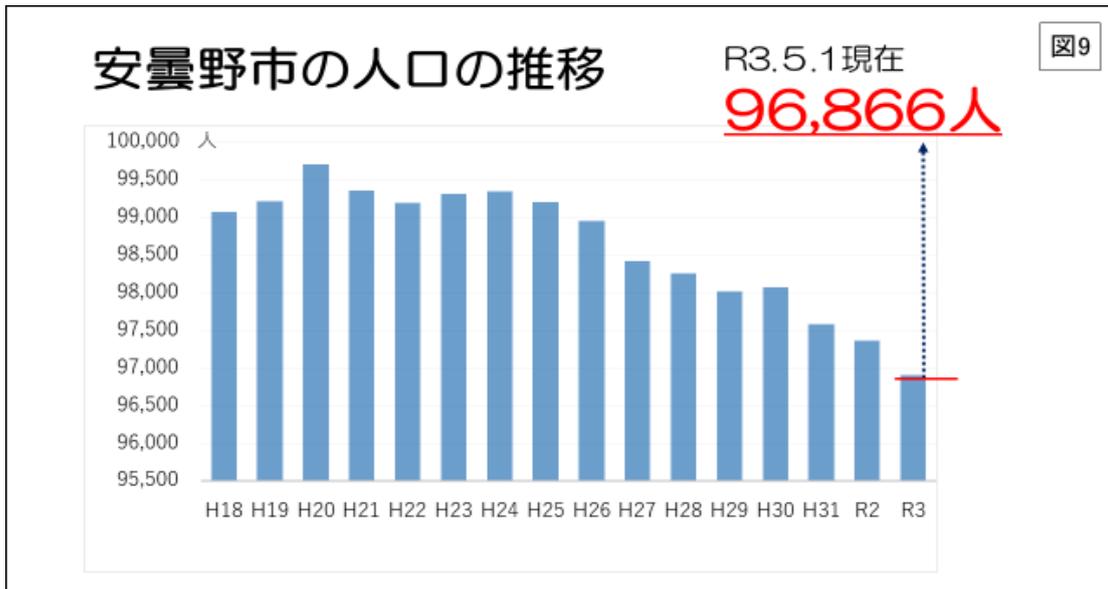


※拡大版は資料編 P 29 参照

5 安曇野市の人口と児童生徒数

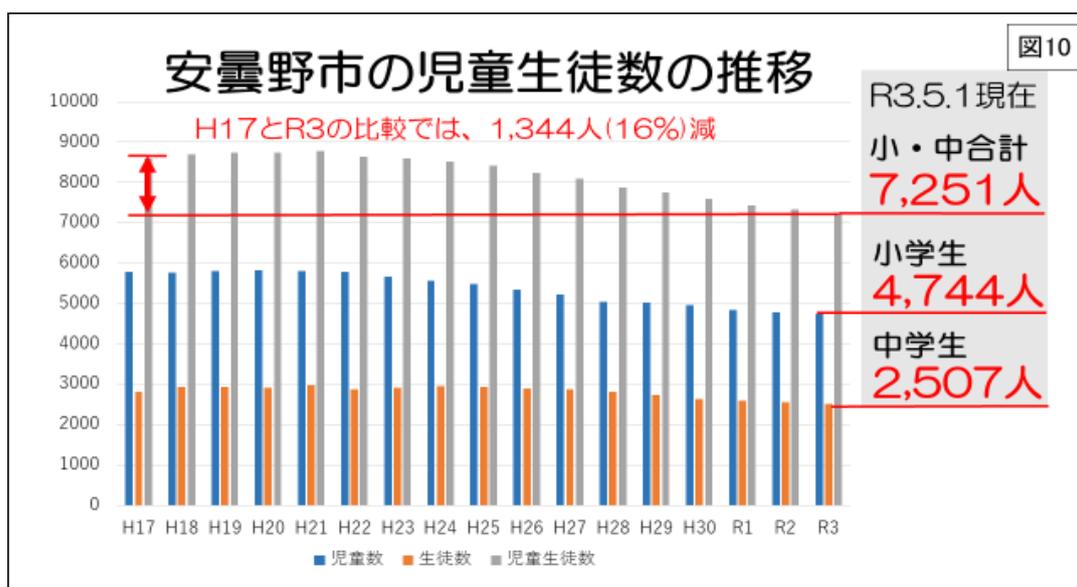
(1) 安曇野市の人口の推移

安曇野市の人口は、合併後しばらくして減少に転じ、減少傾向が続いており、令和3年5月1日現在 96,866 人となっています。(図9)



(2) 安曇野市の児童生徒数の推移(合併時から現在まで)

安曇野市の児童生徒数は、令和3年5月1日現在、小学校児童数は4,744人、中学校生徒数2,507人で、合計7,251人です。合併直前の平成17年5月1日現在の児童生徒数(8,595人)と比較すると16年間に1,344人の減少(16%減)になります。(図10)



昨年と本年度を比べると、通常学級在籍児童生徒は128人減ですが、特別支援学級在籍児童生徒は48人増となっています。これを、学級数で見ると、特別支援学級の学級数が増加傾向にあることから、全体の学級数の減少は小さい状況です。

(図11) 【参考】学級数について …資料編 P27 参照

現在の児童生徒数・学級数 (図11)

R3.5.1 現在

	児童生徒数			学級数		
	通常学級	特別支援学級	計	通常学級	特別支援学級	計
小学校	4,420	324	4,744	155	50	205
	-60	27	-33	-3	1	-2
中学校	2,327	180	2,507	76	29	105
	-68	21	-47	-2	1	-1
計	6,747	504	7,251	231	79	310
	-128	48	-80	-5	2	-3

下段の数字は、R2.5.1との比較

(3) 今後の小・中学校の児童生徒数の予測と特徴

次に、今後の小・中学校別の児童生徒数を、出生数をもとに推測し、令和2年度と令和7年度の児童生徒数の今後5年間の増減率をみると、小学校でその率が高いのは、豊科東小（-35%）、堀金小（-28%）、穂高北小（-26%）、明北小（-24%）、明南小（-19%）となっています。

中学校では、堀金中（-24%）、明科中（-13%）となっています。全体で、521人減少する見込みです。（図12、図13）

図12

小学校別児童数のR7推計値とR2との比較

	R2(人)	R7*(人)	R7-R2(人)	増減率(%)
豊科南小	681	695	14	2
豊科北小	548	538	-10	-2
豊科東小	175	114	-61	-35
穂高南小	574	596	22	4
穂高北小	674	498	-176	-26
穂高西小	393	437	44	11
三郷小	928	873	-55	-6
堀金小	482	349	-133	-28
明南小	217	175	-42	-19
明北小	105	80	-25	-24
計	4777	4355	-422	-9

*出生数を基にした推計値 ○ 減少が著しい学校

図13

中学校別児童数のR7推計値とR2との比較

	R2(人)	R7*(人)	R7-R2(人)	増減率(%)
豊科南中	311	350	39	13
豊科北中	355	370	15	4
穂高東中	478	455	-23	-5
穂高西中	410	383	-27	-7
三郷中	507	503	-4	-1
堀金中	304	230	-74	-24
明科中	189	164	-25	-13
計	2554	2455	-99	-4
合計	7331	6810	-521	-7

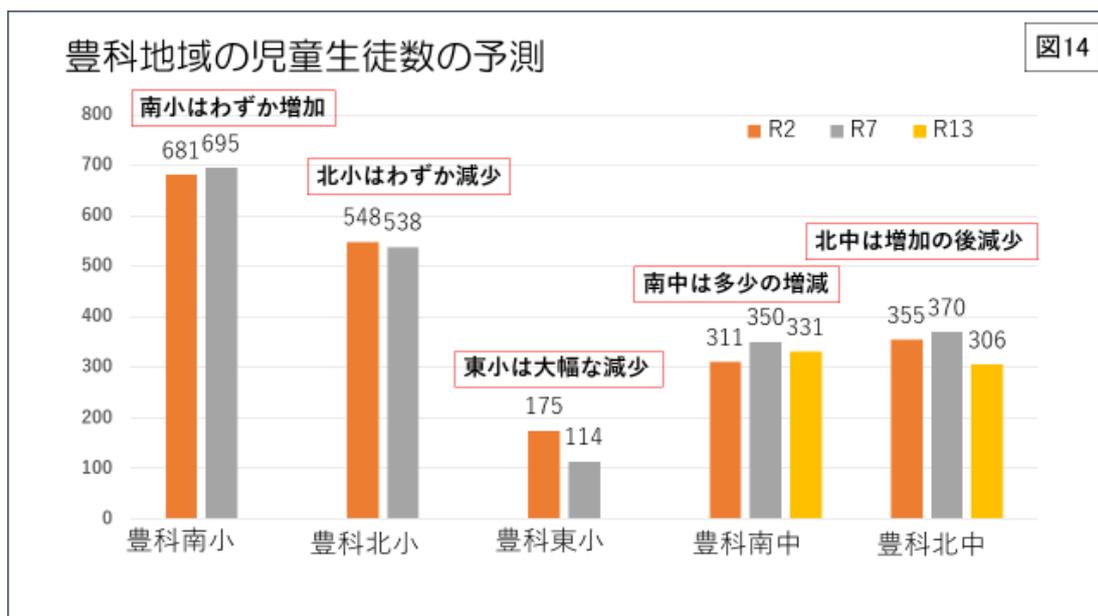
*出生数を基にした推計値 ○ 減少が著しい学校

令和7年には、令和2年と比べて市内小中学校全体で521人減少することが予測される。

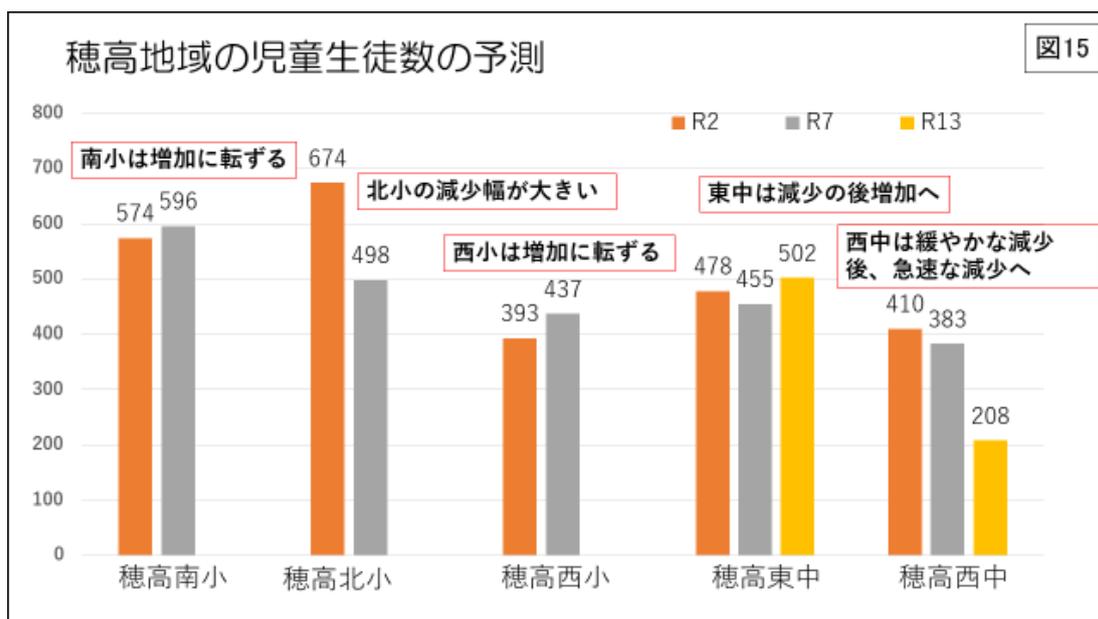
(4) 地域ごとにみた学校別児童生徒数の予測

〔豊科地域〕豊科南小はわずか増加、豊科北小はわずか減少、豊科東小は大幅な減少となる見込みです。豊科南中と豊科北中は5年後まで増加した後、減少していくと思われます。その減少幅は、豊科北中が豊科南中よりも大きいと見込まれます。

(図 14)

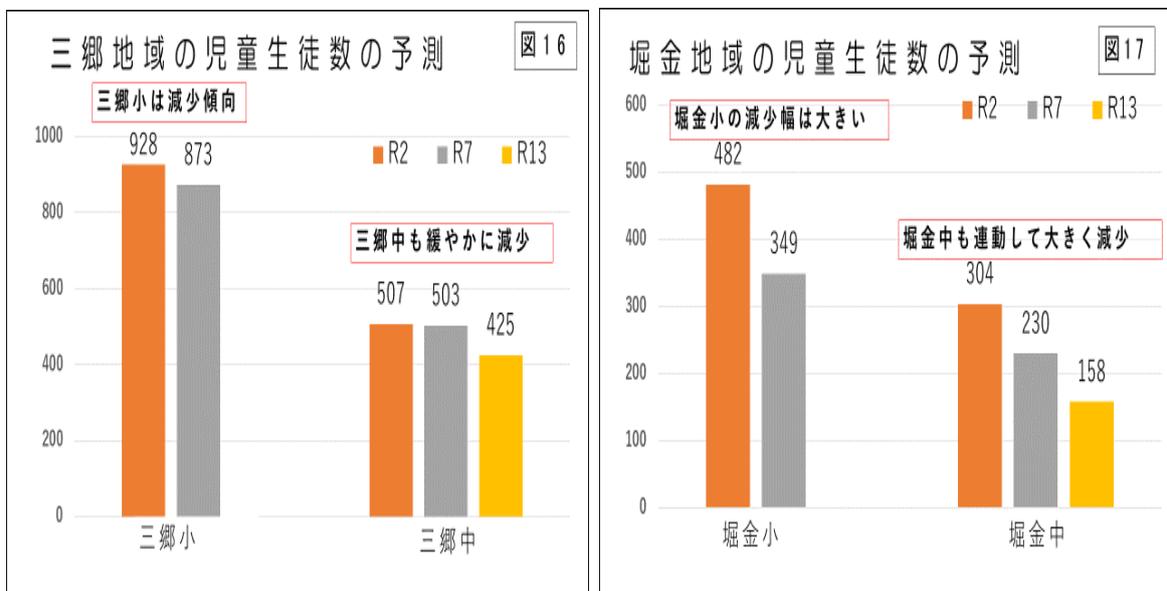


〔穂高地域〕穂高南小と穂高西小は、増加に転ずる一方、穂高北小は大幅に減少することが見込まれます。穂高東中は減少の後、増加へ、穂高西中は緩やかな減少後、急速に減少するものと思われます。(図 15)



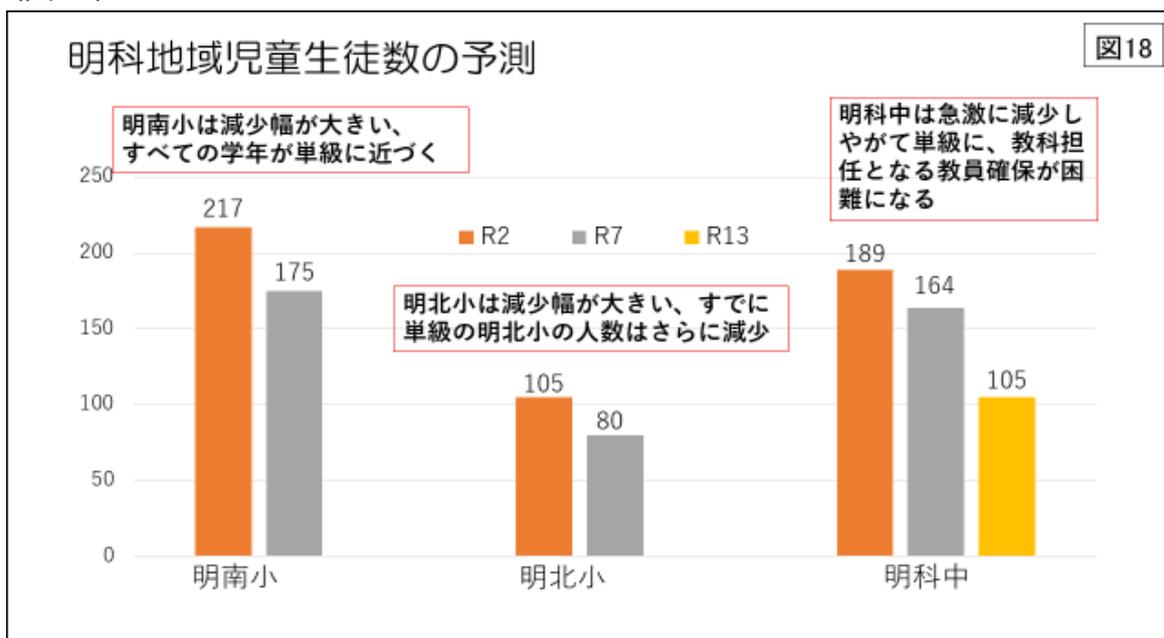
〔三郷地域〕三郷小と三郷中は緩やかに減少していくものと思われます。(図 16)

〔堀金地域〕堀金小の減少幅は大きく、堀金中は、堀金小に連動する形で大きく減少するものと思われます。(図 17)



〔明科地域〕明南小、明北小ともに減少幅が大きく、明南小はすべての学年が単級に近づく見込みです。すでに単級の明北小のクラスの人数はさらに減少する予測です。明科中は急激に減少しやがて単級になっていきます。そうすると、すべての教科で教科担任が学習指導を行うための教員確保が困難になるものと思われます。

(図 18)



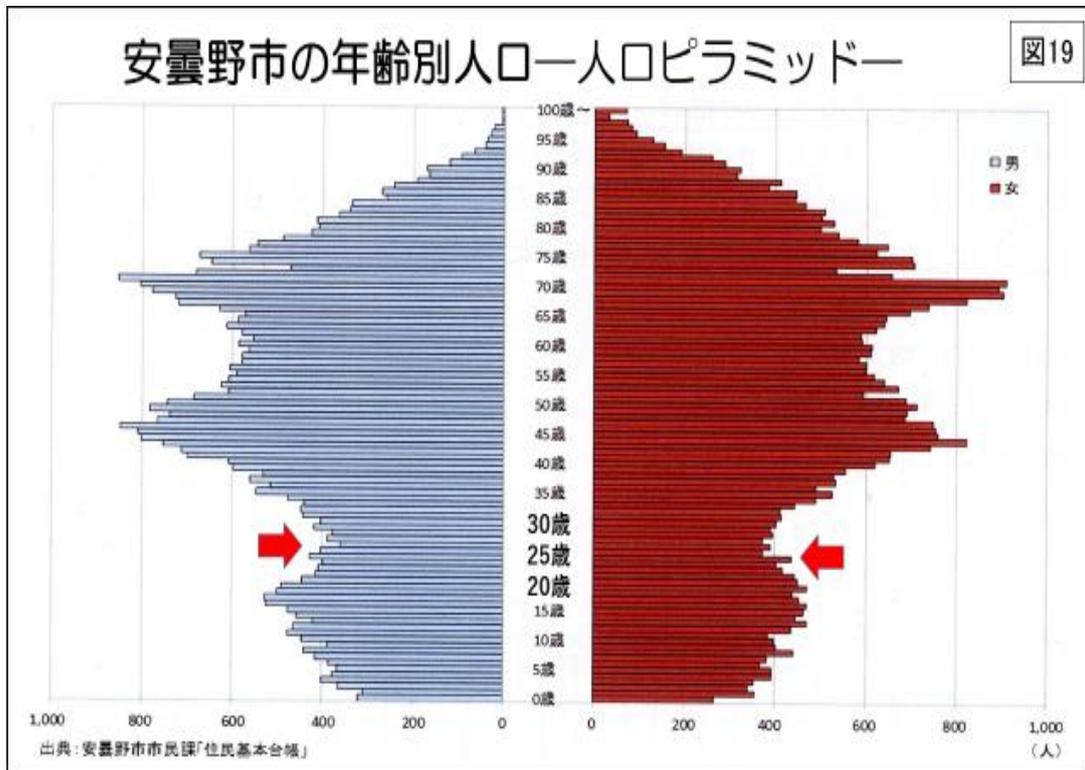
6 安曇野市の未来を担う世代の状況

(1) 安曇野市の年齢別人口（人口ピラミッド）からみた課題（図19）

安曇野市の年齢別人口＝人口ピラミッドをみると、男女ともに20歳代半ばで大幅に人口が少なくなっていることが特徴です。この背景には、高校卒業後の進学、就職等で市外への転出が多いことがあげられますが、実際には、大学を卒業または就職する時点で住民票を移す結果、一気に人口が減少するのではないかと考えられます。その後は、4～5年後から徐々に安曇野に戻ってくる傾向が反映されているものと推測します。

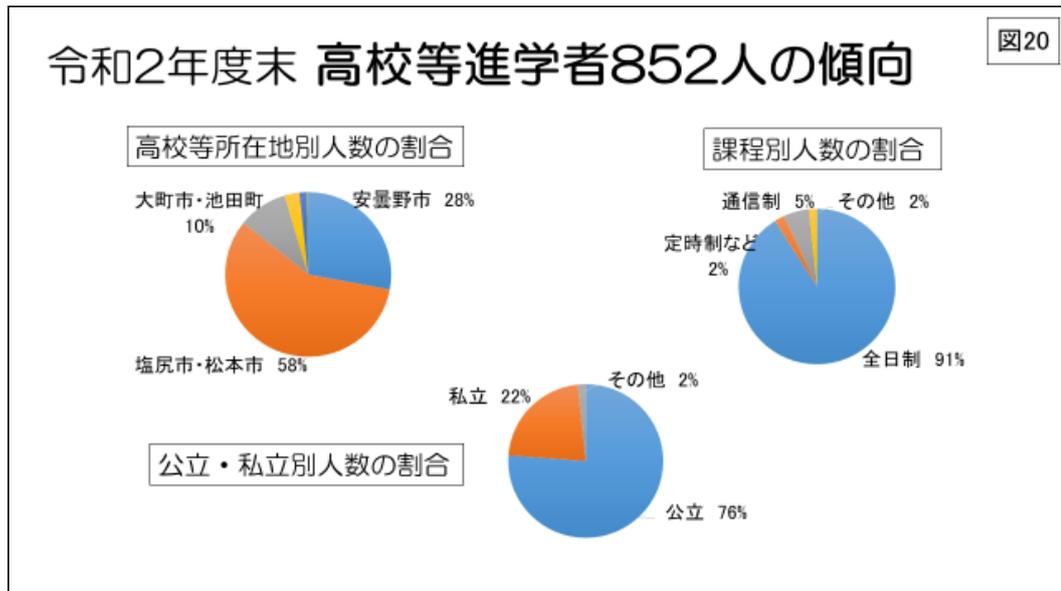
また、14歳以下の人口減少は今後も続く見込みのため、市としても出生数を伸ばす対策を講じていますが、仮にこの状況が続けば、現在の学校数を維持することが困難な時期が早晚到来することが懸念されます。

今後、安曇野市が持続可能な活力ある自治体として生き残るためには、小中学校や高校の時代に安曇野のよさ、地域の魅力、ふるさとを心に刻んでもらえるか、安曇野地域にあるさまざまな分野の優良企業や働く場があることを認識してもらえかなどの小中高を通じたキャリア教育についても連携して取り組む必要があるととらえています。



(2) 中学校卒業者の進路状況

令和2年度末の高校進学者852人中、安曇野市内の高校等へは27.9%、松本市、塩尻市の高校等へは57.7%、大町市・池田町の高校へは9.6%となっています。また、公立が76.2%、私立が22.1%です。(図20)



*図20の「大町市・池田町」には、池田町にある長野県安曇養護学校高等部への進学者5名が含まれています。同校高等部には平成22年4月に募集定員8名の「あづみ野分教室」が、県南安曇農業高校内に開室され、令和3年に高等部へ進学した5名中2名が通学しています。「地域との関係を深めた作業学習、日常生活に必要なコミュニケーション能力を高める学習、就労に向けての力をつける学習」に取り組む特色ある教育を行っています。

7 市民が期待する小・中学校の姿と市が目指す活力ある学校の姿

(1) 「市民アンケート調査」からみた期待する小・中学校 (図21)

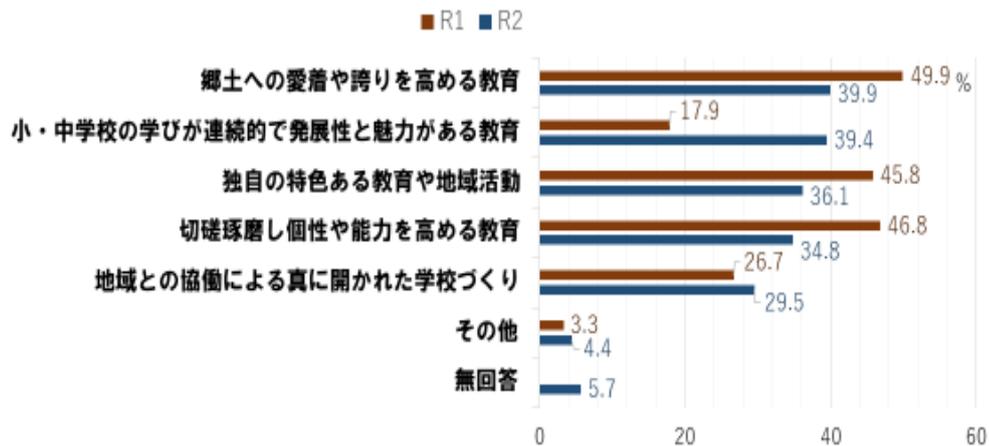
安曇野市政策部政策経営課が実施した「市政全般に関する市民意識調査」の「学び合い人と文化を育むまち」の教育に関する質問項目として、令和元年度調査では「あなたが期待するこれからの安曇野市の小中学校の姿はどれですか。」、令和2年度調査では「あなたは、特色ある学校づくりのため、市では、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか」(複数回答)を尋ねました。

その結果、市民が期待する安曇野市の小中学校の姿は、「小・中学校の学びが連続的で発展性と魅力がある教育」に期待が高まっている一方で、「地域とともにつくっていく真に開かれた学校」に一層力を入れる必要があることがわかりました。

図21

期待する小・中学校の教育

—令和元年度・令和2年度「市民意識調査」から



市政全般に関する市民意識調査(市内在住の18歳以上2000人、無作為抽出、質問紙調査、複数回答)
 令和元年度: 令和2年2~4月実施(有効回答者数817件) 令和2年度: 令和3年2~4月実施(有効回答者数843件)

(2) 市が目指す活力ある学校の姿

教育委員協議会では、アンケート結果等をもとに、「安曇野市が目指す活力ある学校」とはどのような学校かについて協議し、期待する「これからの学校」、目指す「活力ある学校」として、次の5つにまとめました。(図22)

図22

期待する「これからの学校」の姿

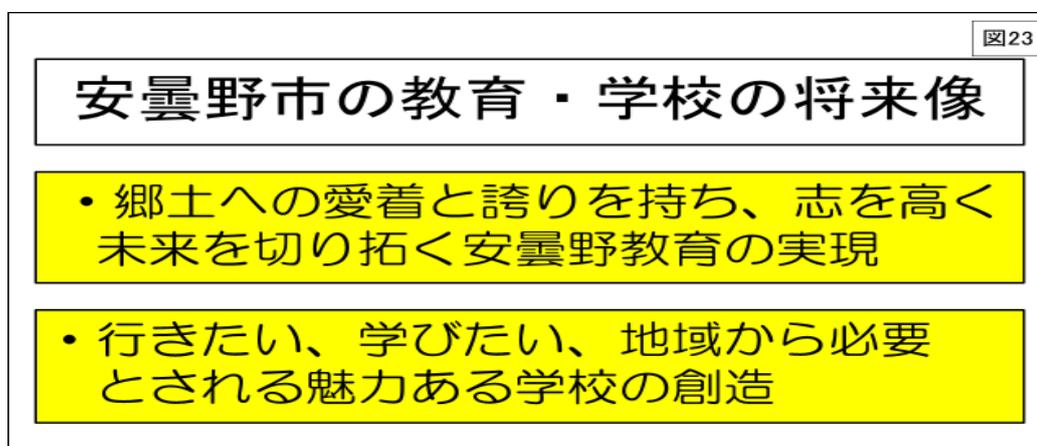
- ① 独自の特色ある教育や地域活動を活発に行う学校
- ② 地域との協働による真に開かれた学校
- ③ 切磋琢磨し個性や能力を高める学校
- ④ 郷土への愛着や誇りを高める学校
- ⑤ 小・中の学びが連続的で発展性と魅力がある学校

—————目指す「活力ある学校」の姿

- ① 独自の特色ある教育や地域活動を活発に行う学校
地域住民、児童生徒や教職員の思いが大切にされ、創意工夫を凝らした独自の特色ある教育活動を展開する学校
- ② 地域との協働による真に開かれた学校
保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させたり、学校の様々な課題解決に地域住民が積極的に参加したりして、地域とともにつくっていく真に開かれた学校
- ③ 切磋琢磨し個性や能力を高める学校
一定数の児童生徒がともに生活する学校で、多様な考えをもつ人間が触れ合い学び合って、切磋琢磨しながら個性や能力を高めていく学校
- ④ 郷土への愛着や誇りを高める学校
地域の豊かな自然・歴史・文化・地域産業資源に着目した体験的な活動を多く取り入れ、郷土への愛着や誇りを育む学校
- ⑤ 小・中学校の学びが連続的で発展性と魅力がある学校
現在ある小学校と中学校を組み合わせ一貫教育を行う「小中一貫教育」の導入、小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して一体的に行う小中一貫型小学校・中学校や義務教育学校の設置など、学校（区）ごとに理念や方針を明確にした魅力ある学校

8 安曇野市の教育・学校の将来像

さらに、これからの安曇野市が目指す教育・学校の将来像として、大きく2つの目標を設定しました。(図23)

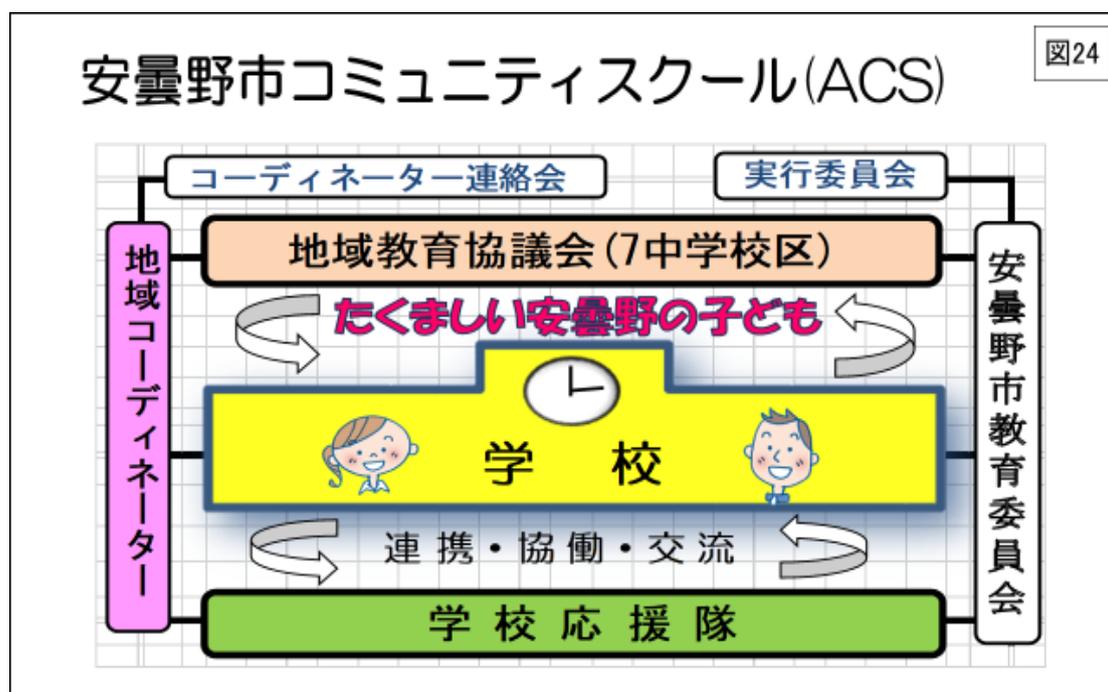


9 「活力ある学校づくり」を目指した具体的方策

2つの教育・学校の将来像を目指して、5つの学校を掲げ、安曇野市立小・中学校の学びの環境をよりよいものにしていくために、コミュニティスクールの活性化、小中一貫教育の導入、「安曇野の時間」の創出の3つの柱を立てました。

(1) コミュニティスクールの活性化

コミュニティスクール^{※5}とは、「保護者や地域住民の協力と支援で、地域とともにつくる学校づくりを行うためのしくみ」のことです。安曇野市では、平成21年度から安曇野市学校支援地域本部事業を取り入れ、平成26年度からは安曇野市スクールサポート事業、平成29年度からは、県教育委員会が推奨している信州型コミュニティスクールとして、「安曇野市コミュニティスクール(ACS)」の名称で体制を整備し、7中学校区ごとの地域教育協議会や学校支援ボランティア（学校応援隊）、実行委員会などを組織して令和4年3月まで推進してきました。（図24）



その結果、これまで大勢の地域の方々に支援をしていただき、児童生徒は、「社会で生き抜く力、ふるさと安曇野への愛着や誇り、学ぶ楽しさ」などを育てていただいています。また、地域の方々からは「やりがいや生きがいを感じる、かかわる

ことが楽しい、子どもから元気をもらう」と嬉しい言葉をいただいています。一方で、「学校に関心はあるが、どうやって協力したらよいかわからない、かかわり方がわからない」「経験や知識を子どもたちにもっと伝えたい」「敷居がまだまだ高い気がする」などの意見もいただいています。学校からは、「いつでも学校に来ていただけるような柔軟なしくみが欲しい」という声が寄せられました。(図 25)

ACS(安曇野市コミュニティスクール)の成果と課題 図25



①
裁縫学習



②
総合(太鼓)



③
八面大王劇



④
クラブ活動(折り紙)



⑤
自主学習

〔児童生徒〕 ● “社会で生き抜く力、ふるさと安曇野への愛着や誇り、学ぶ楽しさ” が育っている
 〔地域〕 ● “やりがいや生きがい”を感じる、かかわることが楽しい、子どもから元気をもらう
 ▲ 「学校に関心はあるが、どうやって協力したらよいかわからない、かかわり方がわからない」
 「経験や知識を子どもたちにもっと伝えたい」「敷居がまだまだ高い気がする」
 〔学校〕 ▲ 「いつでも学校に来ていただけるような柔軟なしくみが欲しい」

➡ 地域とともに、真に開かれた学校を目指す

そこで、現在の組織を見直し、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、学校の様々な課題解決に地域住民がもっと積極的に参加して、地域とともにつくっていく真に開かれた学校づくりを更に進めるため、新たに 17 小中学校ごとに学校運営協議会を導入した国型のコミュニティ・スクールへの移行を目指すことにしました。国型のコミュニティ・スクールでは、これまでの学校と地域とのかかわり方が、連携から協働へとより密度の濃いものを目指すことになることから、これまでの安曇野市コミュニティスクールで用いてきた名称も、理念や考え方を反映したものにするため変更したいと考えています。(図 26、27)

- ・ 地域教育協議会 ➡ 学校運営協議会
- ・ 学校応援隊 ➡ 地域学校協働本部 (仮称「ボランティア会」)
- ・ 地域コーディネーター ➡ 地域学校協働活動推進員

図26

コミュニティスクールの活性化

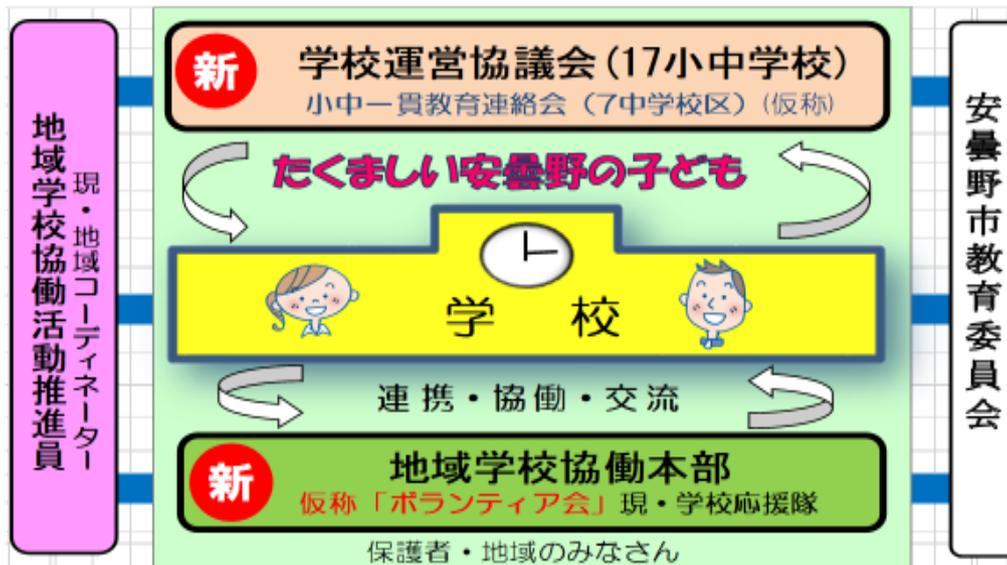
学校運営協議会と地域学校協働活動による 安曇野市コミュニティスクールの構築

学校運営に保護者や地域住民の意見を反映し、学校の様々な課題解決に地域住民がより積極的に参加できる体制へ

→ 国型コミュニティ・スクールへ

図27

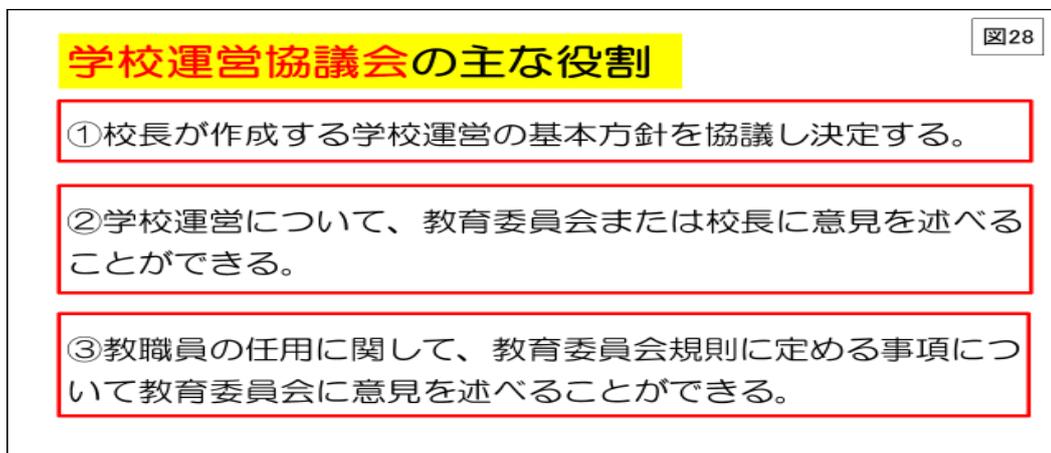
R4.4からの新体制*のイメージ図



*「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5」(H29.4施行)

(2) 新たな学校運営協議会の主な役割と協議会運営のポイント

各学校に設置される学校運営協議会の主な役割は3つあります。(図 28)



なお、③については、ここでの任用に関する意見は、分限処分、懲戒処分、勤務条件等の決定にかかわる事項は含まれません。つまり、実現しようとする教育目標に沿った教職員の配置、教職員構成のあり方等を求めるものであり、目指す学校像、学校運営ビジョンを実現させるための意見ということになります。

次に、学校運営協議会の運営のポイントを3つに整理しました。

- ① 委員は、非常勤特別職の公務員として、教育委員会から任命されます。
- ② 委員は、合議体の協議会運営者として、当事者意識をもって臨むことが求められます。
- ③ 委員は、会議における司会・記録・事務等を率先して行うことにより、自立した運営を行うことが大切です。学校任せにせず、学校に負担をかけない運営体制を構築する必要があります。

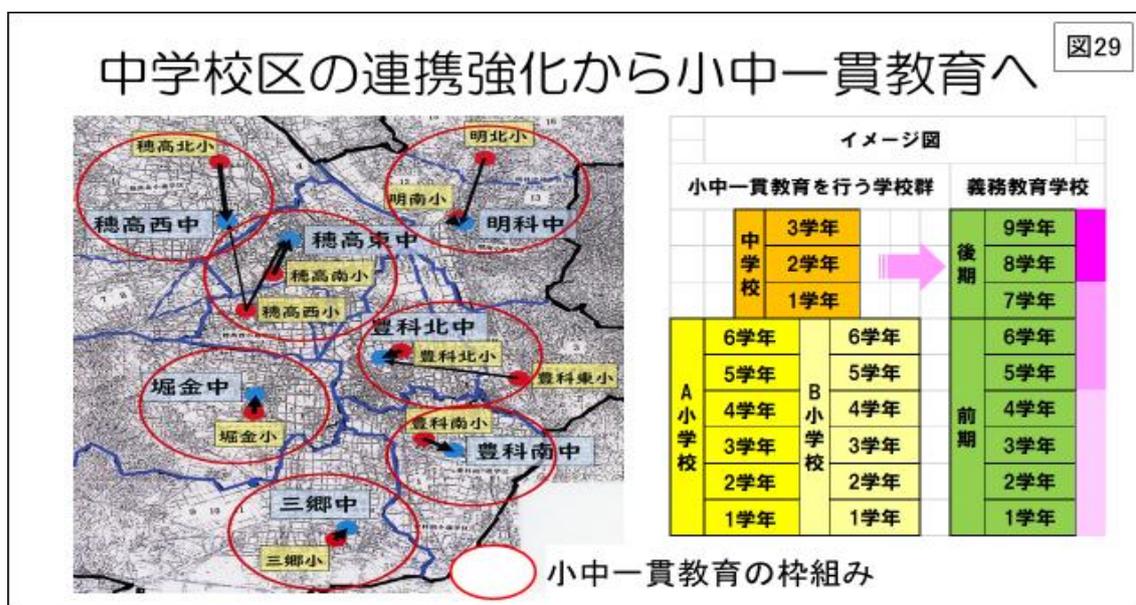
(3) 新しいコミュニティ・スクールへの移行で変わること・期待されること

- ・各学校に学校運営協議会を設置することで、協議会の開催回数を増やすことができ、地域住民が学校の様々な課題により当事者意識を持って積極的に参加し、学校と地域が一緒に問題解決に当たることが期待できる。(真に開かれた学校)
- ・学校応援隊を組織化し、地域住民が運営するボランティア会とすることにより、学校の支援要請にスピーディーに応えることができる。(無償のボランティア活動)
- ・学校が地域コミュニティのよりどころ(拠点)となる。

(4) 小中一貫教育の導入

今後の日本の教育に求められることとして、松本大学山崎保寿教授は、教育委員協議会での講演会（令和2年2月18日）の中で、「これからの学校は、同一学区内の小・中学校が、学校教育目標や目指す子ども像を共有し、その達成に向けて小・中学校9年間を通じた系統的な教育活動（教育課程）を展開することにより、児童生徒のより豊かな学びと成長を実現していくことが大切だ」というお話をされました。これを受けて、安曇野市ではこれまでも行ってきた中学校区での小中連携教育をさらに発展させ、小中一貫教育の導入を目指すことにしました。

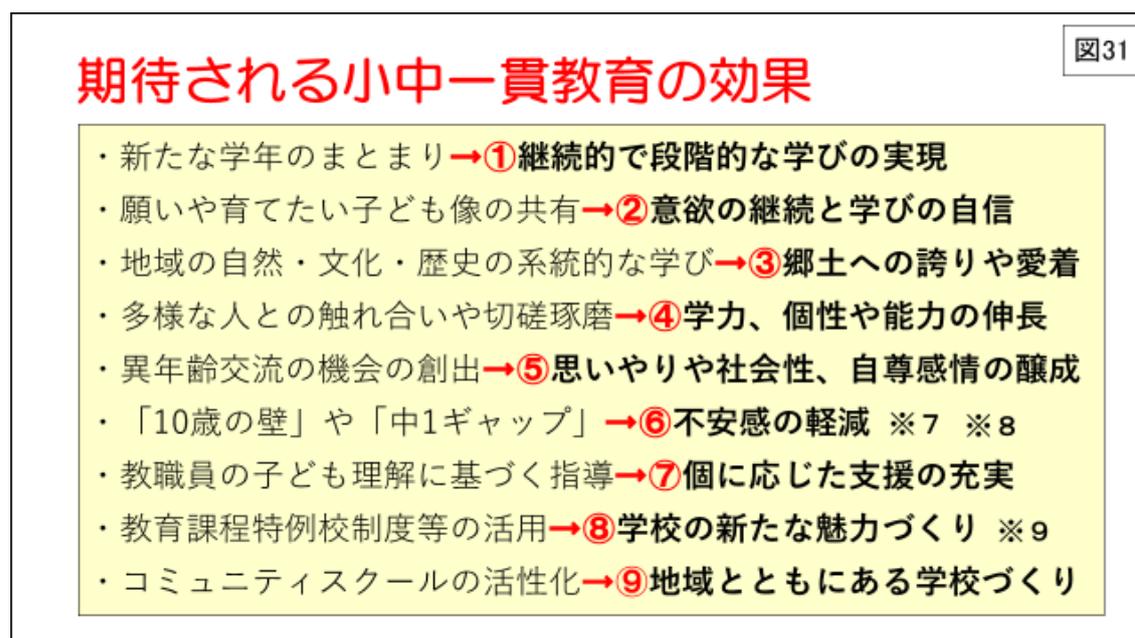
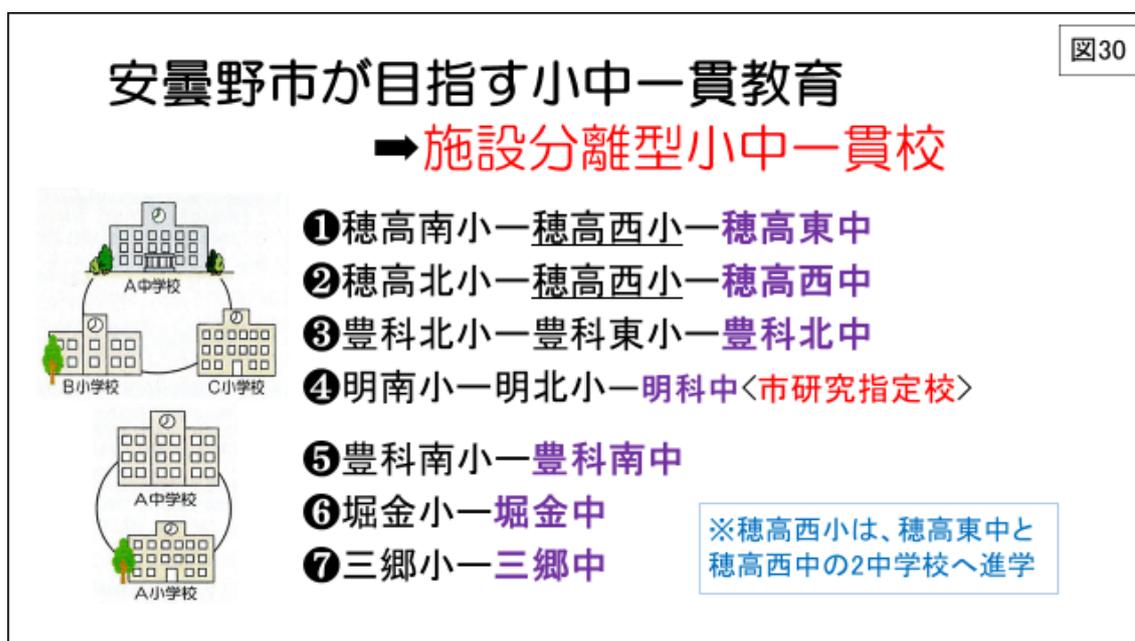
(5) 安曇野市の目指す小中一貫教育の枠組み(図 29)



(6) 安曇野市小中一貫教育に向けた市指定校研究(図 30、図 31)

安曇野市教育委員会では、小中一貫教育の導入により、9年間の継続的で段階的な学びを実現させ、図 38 に掲げる期待される小中一貫教育の効果、たとえば「中1ギャップ」^{※8}の解消のほか、郷土への誇りや愛着の醸成、学力、個性や能力の伸長、小中の教職員が深い児童生徒理解に基づいた連携した指導や、学び合って指導力を向上させることなどについて具体的にその方法や課題等を明らかにしたいと考えました。そのために、指定校研究を実施することとし、令和2年度・3年度に、明北小学校、明南小学校、明科中学校を指定し、次のような内容で研究・実践を重ねています。

- ・同一学区の小・中学校が目指す「たくましい安曇野の子ども」の具体像
- ・児童生徒の実態や地域の特性を基にした「9年間を通じた教育課程」
※9
- ・教育課程特例校制度の活用^{※9}の検討（魅力ある特色ある学校の創出）
- ・小学校における教科担任制^{※10}の導入
- ・明科南・北認定こども園や明科高校との連携
- ・今後の新しいコミュニティ・スクールとの一体的な取り組み
- ・義務教育学校^{※6}創設の可能性 など



(7) 「安曇野の時間」(仮称)の創設

安曇野市立小・中学校では、ふるさとである安曇野市の自然や文化、歴史等について、地域に出かけて調査活動を行ったり、地域の方々から直接お話をお聞きしたりして、折に触れて体験的・探究的に学んできています。そして、そのことは、各小中学校の特色ある教育活動ともなっています。

これらを、小中一貫教育の中で改めて見直し、この地で教育を受ける児童生徒にとって、どのような内容をいつの時期(年齢)に学ぶことがよいのかを整理し体系化して、安曇野市に対するより深い理解のもと、ふるさとに対する愛着や誇り、自信につなげたいと願い、「安曇野の時間(仮称)」という形に位置づけたいと考えています。(図32)

さらに、県立高校では、「信州学」を中心にして主体的・対話的で深い学びの実現を目指しているので、市内4高校でも安曇野市の地域素材を教材として活用し、探究的な学びが実現するよう連携を強化していきたいと考えています。

なお、市教育委員会文化課では、安曇野市誌編纂事業を本格的にスタートさせますが、この中で「子ども版『安曇野市誌』」についても検討しています。将来的には、「安曇野の時間」のテキストとして活用できるよう連携を図ってまいります。

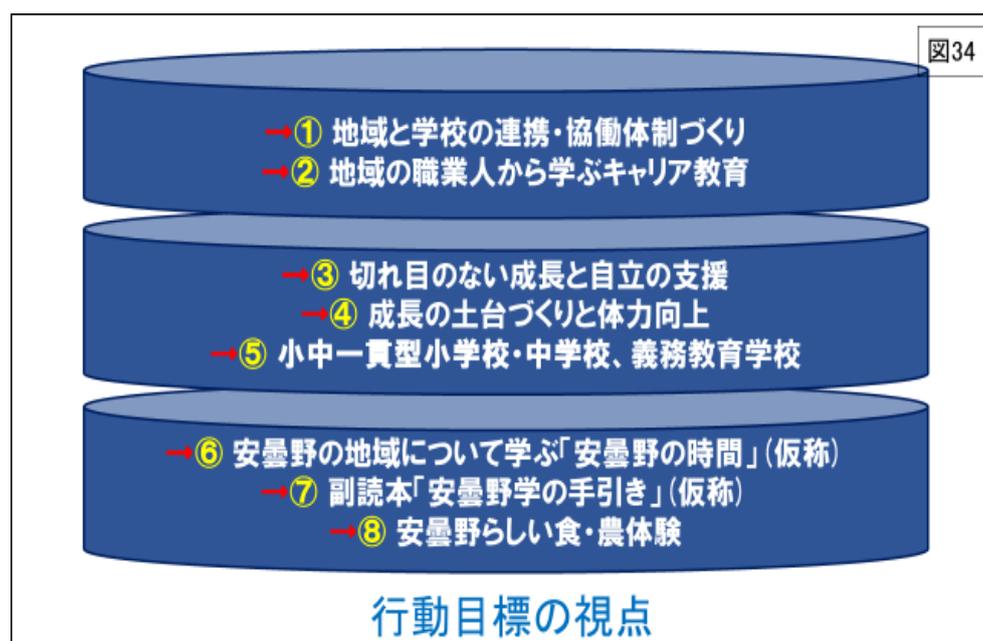
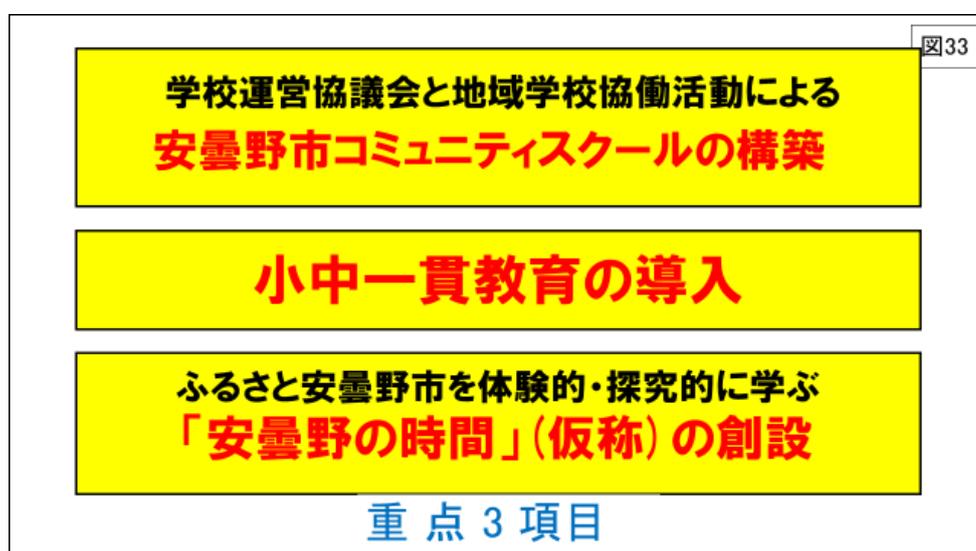
図32

「安曇野の時間(仮称)」とは

- 安曇野市の自然・文化・歴史・産業などについて、現在行っている学習活動を、小中一貫教育の視点で整理し、体系化したもの。
- 安曇野市に対するより深い理解のもと、ふるさとに対する愛着や誇り、自信につなげたい。

10 これからの安曇野市の教育・学校のあり方について（まとめ）

以上のように、重点3項目(図33)を掲げ、行動目標の視点(図34)について相互に関連づけながら、この地で学ぶすべての子どもたちが、持てる力を伸ばし、心豊かにたくましく生き抜く力を育む教育環境を、学校・地域とともにつくっていく基本的立場に立って、「郷土への愛着と誇りを持ち、志を高く未来を切り拓く安曇野教育の実現」「行きたい、学びたい、地域から必要とされる魅力ある学校の創造」を目指してまいります。



【資料編】

安曇野市立小・中学校将来構想(案)の策定までの経過

(1) 安曇野市教育委員協議会の開催状況(開催日、主な協議内容等)

R1. 11. 28	第1回	児童生徒数の最新予測、国・県の考え方共有
R1. 12. 25	第2回	検討項目の整理、県内他市の事例研究
R2. 1. 29	第3回	市民意識調査の活用、明科北認定こども園の方針確認
R2. 2. 18	第4回	松本大学山崎保寿教授の講演会
R2. 3. 26	第5回	学校施設改修・長寿命化改良工事の確認
R2. 4. 23	第6回	安曇野市小中学校の学校沿革史の確認
R2. 5. 27	第7回	懇談会説明資料の検討、県外視察の検討
R2. 6. 29	第8回	懇談会説明資料の検討、懇談会の日程調整
R2. 7. 28	第9回	懇談会の報告、「構想イメージ図(案)」の検討
R2. 8. 25	第10回	懇談会の報告、構想案骨子案の検討
R2. 9. 24	第11回	将来構想(素案)の検討
R2. 10. 21	第12回	全体構想図の検討
R2. 11. 16	第13回	将来構想(案)の検討
R2. 12. 21	第14回	将来構想(案)の検討
R3. 1. 13	第15回	研究指定校明科地域3校長との意見交換

(2) 各種団体・組織と行った懇談会(開催日、懇談先、参加人数等)^{*}

R2. 7. 7	区長会正副会長会	安曇野市区長会正副会長 5人
R2. 7. 9~8. 5	地域教育協議会	地域教育協議会委員のべ84人、17会場
R2. 7. 14	市校長会	小中学校校長 17人
R2. 7. 21	県教委	中信教育事務所長ほか2人
R2. 7. 27	社会教育委員	市社会教育委員 12人
R2. 8. 3	県教組安曇野支部	執行委員長ほか役員 8人
R2. 8. 19	市内4高校長	市内高校長 4人
R2. 10. 6	退職校長会南安支会	会長、副会長、幹事 7人
R2. 10. 12	公民館関係者	公民館長 5人、社会教育指導員 6人
R. 2. 10. 22	市教頭会	小中学校教頭 17人
R. 2. 11. 13	市P連役員会	市P連役員 9人
R. 2. 11. 18	市園長会	認定こども園・幼稚園園長 19人

*教育委員協議会事務局が行った懇談を含む。

2 用語解説

※1 西田幾多郎碑

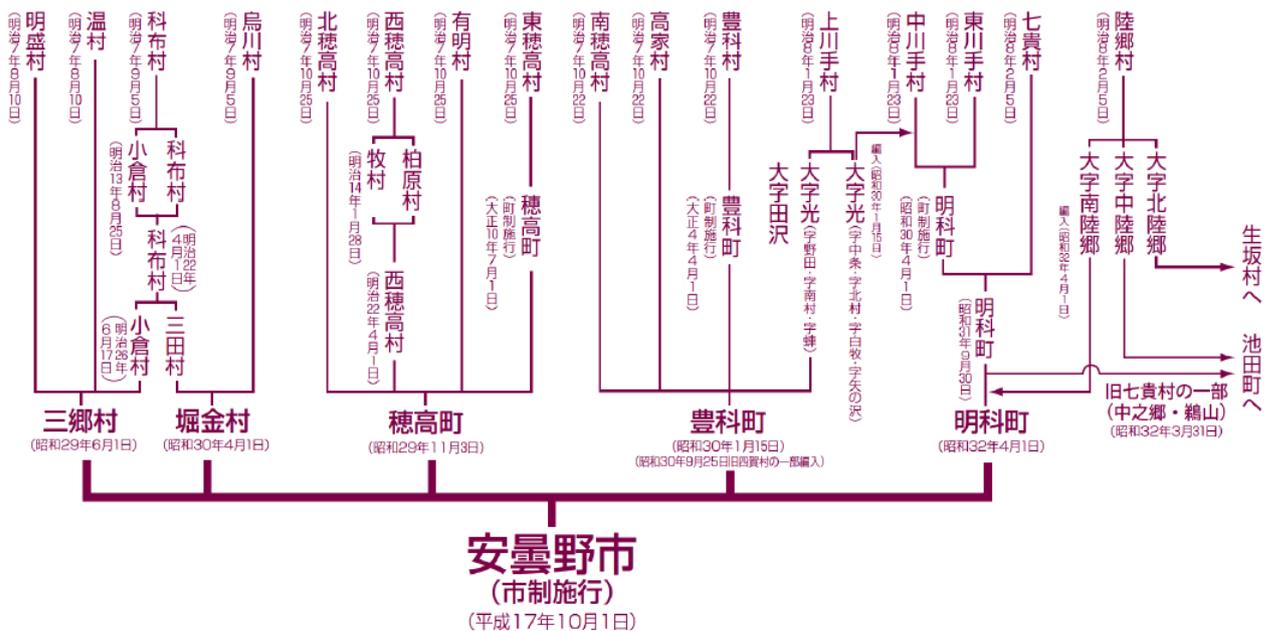
西田幾多郎詩碑は、豊科高家の信濃教育会生涯学習センターの北、旧高家小学校跡にある。日本紀元 2600 年を祝した記念事業の一環で、建碑は昭和 15 年、当時の藤沢利男校長が「教育尊重の村風」を踏まえ、西田の言葉と揮毫を高木幸村長に提案し、教育を思う村民の精神を、後世に伝えようと学校の玄関脇に碑の建立が実現した。

※2 南安曇教育文化会館

安曇野市本庁舎東側に、安曇野市の教師たちが自ら専門性を磨き合う研修活動の拠点としている南安曇教育文化会館がある。館内には、大正 13 年に、現職教員から初めて推挙された初代の南安曇教育会長 岡村千馬太先生の像や、後の総理大臣犬飼毅に揮毫を依頼し、座右の銘としていた掛け軸「知時務持大節則師道立矣」等、この地域ゆかりの先達が残した数々の遺品や、調査研究資料等が保管されている。

また、隣接する南側には、旧豊科中学校時代から引き継がれた「思索の庭」があり、教育哲学者木村素衛先生や三郷野沢出身の哲学者務台理作先生の詩碑が建立され、「教育の真なるもの、教師のあるべき姿を問い続け、求め続ける教師」の思いを新たにしている。

※3 安曇野市の誕生まで—明治からの沿革小史



(安曇野市勢要覧 2020 より)

※4 総合教育会議とは

平成27年4月施行の改正地方教育行政法に基づき、教育政策について協議・調整するため設置された。市長と市教育委員会（教育長及び教育委員）で構成され、市長が招集する。

※5 コミュニティ・スクールが登場する背景

1990年代前半まで「学校教育は学校が担うべきもので、地域住民や保護者等は学校教育に介入しない」という考え方が根強く浸透していたが、1990年代後半になると、地域住民や保護者等が学校に参画する必要性が指摘されるようになった。

さらに、複雑・多様化した子どもや学校の抱える課題を地域ぐるみで解決する仕組みを構築し、質の高い学校教育の実現を図るためにコミュニティ・スクールを創出し、学校運営に広く保護者や地域住民がその当事者として参画し、地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進することとなる。（文部科学省HPから）

※6 小中一貫校、義務教育学校とは

義務教育学校は、平成28年の学校教育法の改正により誕生（学校教育法第1条の中で「幼稚園、小学校、中学校など」とともに教育施設として新たに規定されたことから「1条校」と呼ばれている）。9年間の義務教育を一貫して行う新しい日本の学校。小中一貫校の一種。従来の6-3制の枠組みにとらわれることなく、小中の学年の区切りを柔軟に変えたカリキュラム編成が可能になった。

現行の小・中学校との違い（例）：早期カリキュラムの導入、小学校段階からの教科担任制、児童会と生徒会・学校行事・校則の小中一体化、小中一貫の部活動などが可能となる。

○小中一貫校と義務教育学校の主な違い

小中一貫型小学校・中学校の校長はそれぞれに配置されるが、義務教育学校の校長は1人。義務教育学校の教員は、原則として小中学校両方の教員免許状が必要となる。

○長野県の義務教育学校は、令和3年4月現在、信濃小中学校（上水内郡信濃町）、美麻小中学校（大町市）、根羽学園（下伊那郡根羽村）の3校が設置されている。

○義務教育学校を視野においた小中一貫教育の例

9年間を通じた教育課程の創出（児童生徒の実態や地域の特性から）

※学年のまとまりを「4-3-2年」に見直した場合

- 1～4年生 学級担任制—基礎・基本の定着を図る学習
(読み・書き・計算の習得、自己主導の学びを重視)
- 5～7年生 教科担任制—個性・能力(適性)の伸長を図る学習
(学力の定着と個々の能力を引き出す習熟度別学習の充実、考える力や社会性を育む協同の学びを重視)
- 8～9年生 教科担任制—個性・能力(適性)の一層の伸長を図る学習
(自学自習、思考力・判断力・表現力を発揮した探究力、情報発信力を重視)

※7 「10歳の壁」とは

「10歳の壁」とは、小学校4年生前後の時期に子どもが直面しかねない、勉強面や内面的成長の変化を指す言葉。「9歳の壁」「小4の壁」とも呼ばれる。年齢に応じた子ども発達段階と深く関係しており、発達の個人差が顕著になり、身体も成長し、自己肯定感を持ち始める反面、自己に対する肯定的な意識を持たず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。また、抽象的な概念も理解するようになる時期とも言われる。実際に、算数の分数や割り算につまずいてしまうことがあるため、丁寧な指導が必要である。

※8 「中1ギャップ」とは

小学生が中学1年生に進級した際に、今までと全く違う学校生活や授業のやり方、学習内容、人間関係の変化などから、新しい環境になじめない現象のこと。不登校となったり、いじめが急増したりするなどの問題につながることもあると言われている。

※9 教育課程特例校制度の活用

教育課程特例校制度とは、文部科学大臣が、学校教育法に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度である。(文部科学省HP)

他地域の学校にはない特色ある魅力あふれる学校づくりを図る。

※10 小学校における「教科担任制」とは

小学校では、教科等の学習指導を、原則として学級担任と一部専科教員が担っているが、高学年において教科を選んで、学年内や学校内の教員による教科担当者を決め、授業交換等により教科指導を学級担任以外の教員が行うこと。小中一貫校では、小中の教員による授業交換も可能となる。

3 学級数について

(1) 学級の人数の基準〔令和3年4月現在〕

小中学校の学級の人数を国は40人（小学校1、2年生が35人）を標準と定める。長野県は全学級で35人、特別支援学級8人を基準としている。

※国の標準の考え方によると、学級編制の標準は40人を上限とすることから、下限は20人と算定できる。

※学級編制の標準については、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」を参照

(2) 学級数減少に伴う「懸念される一般的な課題」

- ・社会性やコミュニケーション力を伸ばす場をつくりにくい。
- ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定しやすい。
- ・協働的な学びの設定が難しい。
- ・限られた数の教員の中で、多様な専門性に触れる機会が少なくなる。
- ・切磋琢磨して競い合って育つ場面をつくりにくい。
- ・教員への依存心が強まる可能性がある。
- ・進学等の際に大きな集団へすぐに適応できない可能性がある。
- ・同世代の多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが少ない。
- ・大勢の中で活動する機会が少なく、多面的な評価を受けることが難しい。

(3) 望ましい学級数の考え方

小学校では、まず複式学級解消のため少なくとも1学年1学級以上（6学級以上）であることが必要。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置したりするためには、1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましい。

中学校では、（略）少なくとも1学年2学級以上（6学級以上）が必要。また、免許外指導をなくしたり、すべての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

（文部科学省（H27）「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」）

安曇野市教育大綱

期間：平成30年12月18日～令和5年3月31日

〈平成30年12月18日開催 総合教育会議で決定〉

基本理念

子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り育むまちを築きます。

基本方針

- 1 “からだを動かし、頭で考え、心に感ずる”「たくましい安曇野の子ども」を乳幼児期から学齢期のそれぞれの発達に応じて、連携して育みます。
- 2 豊かな人間性の基礎と社会性を育む家庭教育を充実し、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育みます。
- 3 安曇野の自然や人の中で、豊かな体験や交流を通して人間形成を図る保育・教育に取り組みます。
- 4 生涯の各段階に応じた学習機会を充実させ、生きがいをもって地域社会で活躍できる生涯学習社会の構築を図ります。
- 5 スポーツ活動の充実を図り、だれもが健康で笑顔あふれ、活力みなぎるまちを目指します。
- 6 先人が培ってきた歴史や文化を基にした文化芸術の振興を図り、“文化のかおり高いまち”をつくります。
- 7 市民の多様化する「学び」の要望に応え、本や情報と人とが出会い交流する広場を創出し、知と心が満たされる社会の実現を目指します。



からだを動かし、頭で考え、心に感ずる *
“たくましい安曇野の子ども”

未来を担う
 安曇野市の宝

*文芸評論家・作家 日井吉見（1905-1987 安曇野市）の講演「中学生諸君に望む」（1967）から

＜教育理念＞ 子どもが健やかに育ち、生涯を通じて学び合い、文化を創り
 育むまちを築きます 安曇野市教育大綱（H30.12.18 総合教育会議で決定）

— 願う 児童生徒、教師、学校の姿 —

自ら動く児童生徒

- ・自ら判断し行動する児童生徒
- ・自信をもって自己を表出する児童生徒

学び続ける教師

- ・豊かな発想でのびのびと自らを高める教師
- ・明るく元気に、笑顔で子どもの前に立つ教師

地域へ飛び出す—地域との連携を強める学校

- ・地域の“ひと・もの・こと”と積極的なかわりを持ち、特色ある豊かな学習を展開する学校

市内全校で取り組む内容

- (1) 電子黒板や一人1台端末を活用した授業づくり ICT機器を活用した主体的に学ぶ学習の展開
- (2) 健康増進、体を動かす機会の創出 「手作りお弁当の日」の実施、自力登下校の促進
- (3) 郷土への愛着や誇りの醸成 地域学習の充実、安曇野市歌・あつみの健康体操の普及
- (4) 共生社会への基盤づくり 副学籍の活用と交流及び共同学習の推進
- (5) 連携と交流 幼保小中高の連携強化、民間施設との関係強化、ボランティア会の立ち上げ
- (6) 健全育成 「情報機器の運用規定やルールづくり」と心身の健康被害防止啓発
- (7) 命・人権の尊重 新型コロナウイルス感染症対策と人権教育の推進、交通事故〇〇以外の強化

市研究指定校

- (1) 「明科中学校区における小中一貫教育」(2年次) …明北小・明南小・明科中
- (2) 「ICT機器を積極的に活用した授業づくり」(新規) …豊科北小・穂高北小・穂高東中
- (3) 「国型コミュニティ・スクール移行に向けた体制づくり」(新規) …堀金小・堀金中

“たくましい安曇野の子ども”を目指す安曇野市立小中学校の将来構想(案)

- 重点① コミュニティスクールの活性化 ② 小中一貫教育の導入 ③ 「安曇野の時間(仮称)」の創設

※令和3年度内に策定予定

家庭・地域

幼稚園・認定こども園

県教育委員会・中信教育事務所

校長会・教頭会・教育会・退職校長会・県立特別支援学校・市内県立四高校長会・市PTA連合会 教育関係七団体等

ACS 地域教育協議会・学校応援隊

安曇野市・安曇野市教育委員会（学校教育課・文化課・生涯学習課）

教育委員協議会名簿

教育長	橋渡 勝也
教育委員（教育長職務代理者）	唐木 博夫 R3.11.8まで
教育委員（教育長職務代理者 R3.11.9～）	須澤 真広
教育委員	横内理恵子
教育委員	二村美智子
教育委員	羽田野賢二 R3.11.9～
事務局	
教育部長	平林 洋一
学校教育課長	沖 雅彦

令和4年3月

編集・発行 安曇野市教育委員会

住所 〒399-8281

安曇野市豊科6000番地

電話 0263-71-2223